



鴻原記
人



珍本

リ 5
4766
3



リ5 特
流 4766
巻 3

鴻原記巻下目録

一 元日原北詰二番政事

黒川真道蔵書
黒川真道蔵書
黒川真道蔵書

二 松平信直守伝綱三由九門氏鏖鴻原下向事
并隣國より加勢け事

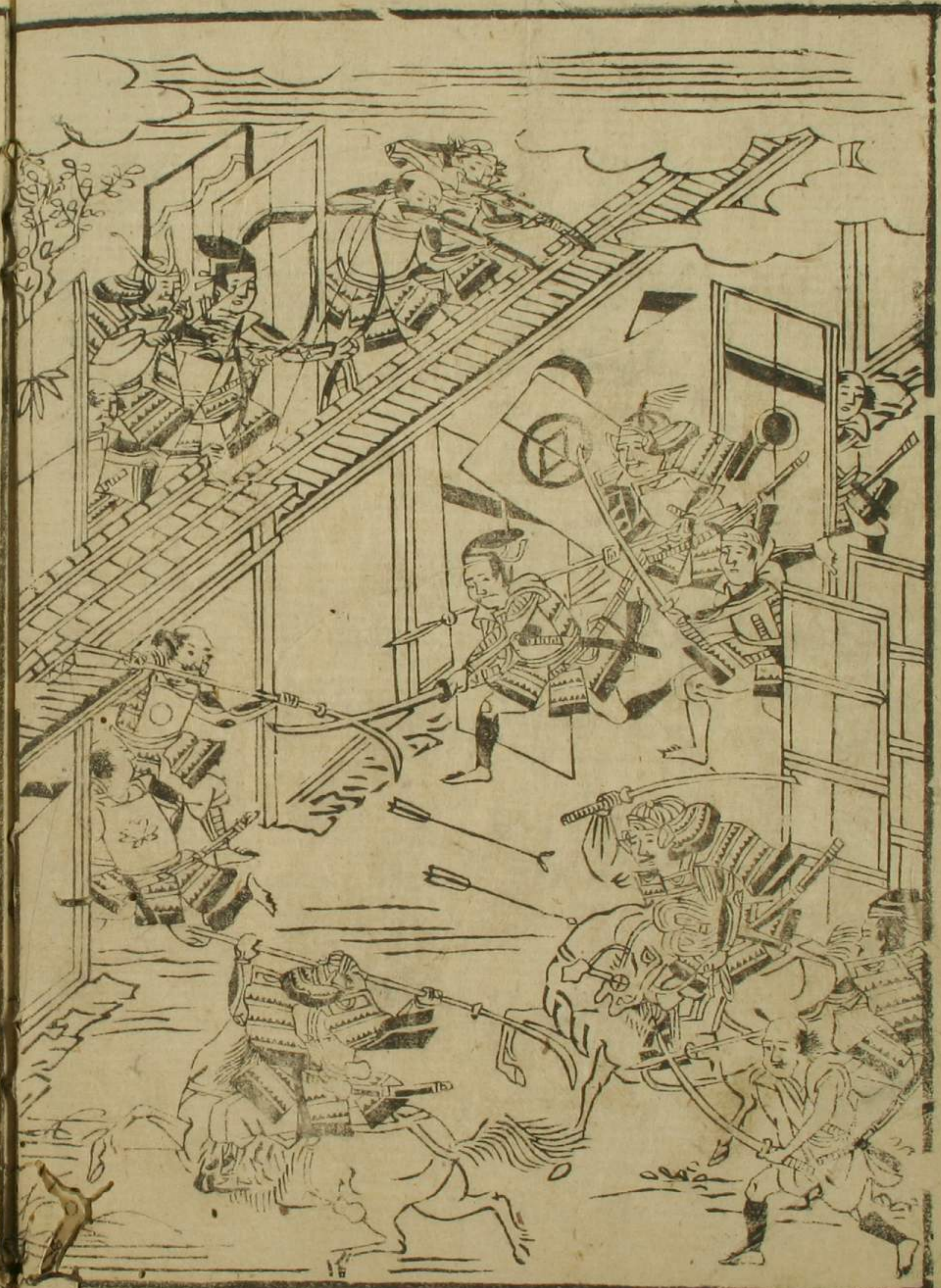
三 二月廿一日吉利より舟寄る夜討りか事

四 同月廿七日吉利より舟落城け事

五 并根村流るる東門先か事
山田右衛門作万死をか得一生と事

一、手がくしあせん除け用意も置けしゆふとせ旅しと
 ありひらん。又さう記しけしゆふとせ旅しと
 せんべい。夜のみん織をせあやふり。後除は福ん
 くとしゆふとせびーやあもよれらん。あゝ鶏鳴
 けしゆふとせひりり。とせせんれせん。あゝとらりや
 織のたまえれ丸なり。きりきりよよ。とせしゆふとせ織
 申れらうらもひり。とせしゆふとせ。健うんれや
 川むら。一千むらり。うらら。ゆ。とせしゆふとせ
 とりり。ゆ。で。降雨のこも。とせしゆふとせ。あけたれ。あ
 さ。記よ。とせしゆふとせ。しゆふとせ。付死。子。負。の。しゆふと
 ち。あ。く。一。千。余。人。時。れ。る。よ。う。と。せ。しゆふとせ。た。れ。ば。あ。け
 くとせしゆふとせ。とせしゆふとせ。久。ぬ。米。乃。軍。勢。と。せしゆふとせ。

一、有馬へ下向とす。こゝへ。とせしゆふとせ。著。船。的。に
 日。く。ゆ。う。ふ。ん。と。後。う。右。首。き。と。後。ひ。何。身。も
 事。了。諸。將。お。し。り。ゆ。と。せしゆふとせ。あ。ら。肥。前。有。馬。の
 一。揆。も。う。退。浪。れ。と。あ。お。自。他。を。勢。し。り。ゆ。と。せしゆふと
 一。海。よ。お。う。ぬ。く。依。固。と。と。せしゆふとせ。あ。ら。り
 ぬ。く。こ。ん。ぬ。ら。日。れ。故。政。と。と。せしゆふとせ。あ。ら。り
 一。ゆ。で。河。津。逆。轉。と。と。せしゆふとせ。あ。ら。り。ゆ。と。せしゆふと
 一。織。事。よ。と。と。せしゆふとせ。勢。は。と。と。せしゆふとせ。あ。ら。り。ゆ。と。せしゆふと
 一。ゆ。と。と。せしゆふとせ。せ。れ。人。は。と。と。せしゆふとせ。あ。ら。り。ゆ。と。せしゆふと
 一。ん。と。と。せしゆふとせ。は。な。れ。故。政。ら。と。と。せしゆふとせ。あ。ら。り。ゆ。と。せしゆふと
 一。ゆ。と。と。せしゆふとせ。の。後。黨。等。數。万。の。蕃。城。と。と。せしゆふと
 一。味。方。と。敵。と。對。揚。ゆ。と。と。せしゆふとせ。あ。ら。り。ゆ。と。せしゆふと。



二 松平伊豆守佐細戸田左門氏鏖有岡下向事

付 隣 必 あり 加 勢 也 事

さるやくに。と使れ人々わけてハ事人ありとてそ
 乃翌日二十日。肥後れ大守。後前乃大守。直玉れ
 人教もも。びくきと。むく。なき。し。書。け。の
 ハ。か。ゆ。こ。し。海。の。所。月。代。松。平。伊。豆。守。佐。細。戸。田。左。門。氏。鏖。有。岡。下。向。事。
 田。左。門。氏。鏖。著。船。わ。り。く。彼。軍。陣。と。所。為。ん
 いて。ま。こ。と。に。是。を。事。勢。あり。ゆ。よ。く。き。門。と
 直。玉。ら。り。人。教。の。こ。し。ゆ。を。き。し。あ。は。し。福。か。さ。ね。く
 ら。う。らん。ま。た。れ。ば。肥。後。乃。大。守。れ。か。ん。敷。ハ。り。く
 あり。も。し。の。り。あ。ま。は。細。川。肥。後。守。老。利。二

万三千と引率一。正月三日に曉けつ天てん。肥後西川さいがわを
 の津と名づぬ。同き日此こ晩景ばんげいに肥前國洲川すまがわ
 の浦へ着船と。原州城もとくにやしろよりまゐる。山口の一里の
 ところあり。細川人教を急ハ洲川すまがわと野原を
 かけかゞをとあまのこさし海うみよとせ。あびの多し
 きおりのと海と。城中のそと遠見えんけんし。いふにけし
 くとあり。とん中。審しんと自ぢ老らう工こうと云ふ。志しと
 して翌日己こに別べつふ。人数と馬へと。いふに
 城よりいぬい力山りきやまへ陣をとる。とて原州城もとくにやしろ
 乃すなはとま。松まつと長門の勝教しょうがう。四しをより
 あり。人数と討せ。あり。いふ。自ぢ前ぜんあり。いふ。けし
 して長陣ながしんの勸すすむ。不ふ如意にぎむ。は。何なに也なり。河か津つの
 あり。水みづ大おほ良らと。上かみ敷しき。より。河か津つの。自ぢ代だい
 志しより。に。新あらた佐さと。を。れ。が。あり。と。細川肥後
 あつて。れ。大軍あり。は。と。と。あり。と。と。大おほと。と。と。と。
 して。これ。細川光利。大おほと。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 ら。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 忠ちゆう高かうと。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 馬まへ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 教かう也なり。正月しょうがつ中旬ちゆうけん。忠ちゆう之の在あ江え戸とあり。と。と。と。と。と。と。と。と。
 田た甲が變へん也なり。同どう市し正せい。一いつ万まん八ぱち千せん。と。と。と。と。と。と。と。と。
 此こ海うみへ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 下かみ野の。大おほ將しょうが。ん。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 原はらの。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 強かう敵てきれ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 在あ江え戸と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

あり。水みづ大おほ良らと。上かみ敷しき。より。河か津つの。自ぢ代だい
 志しより。に。新あらた佐さと。を。れ。が。あり。と。細川肥後
 あつて。れ。大軍あり。は。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 して。これ。細川光利。大おほと。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 ら。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 忠ちゆう高かうと。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 馬まへ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 教かう也なり。正月しょうがつ中旬ちゆうけん。忠ちゆう之の在あ江え戸とあり。と。と。と。と。と。と。と。と。
 田た甲が變へん也なり。同どう市し正せい。一いつ万まん八ぱち千せん。と。と。と。と。と。と。と。と。
 此こ海うみへ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 下かみ野の。大おほ將しょうが。ん。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 原はらの。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 強かう敵てきれ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 在あ江え戸と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

高下

ありし。九洲の諸大名。何れも所へて。また海内を原
に成へど。その門のうあを。まぐり細川越中守忠利。
足田右衛門佐忠之。鍋嶋伝濃守勝安。みこる云
番忠。豊氏。立花飛騨守長政。お並原北一黨。
有馬左衛門依。お野日向守。何れも。河内と河下系と
あて。夜を日おほいづく。肥前おの。馬丸浦倉ら
や。陳わろ。さうして。よをその陳る。この敵機
のり。東北北と。さうま。し。その。陳と。そ
長ら。ま。さ。う。の。う。だ。東北口。細川越中守忠利
そ。以。立。花。飛。騨。守。長。政。を。次。松。く。長。門。守。勝
安。そ。次。み。こ。る。云。番。忠。氏。そ。次。鍋。嶋。傳。濃。守。
勝。安。を。次。お。並。原。北。一。黨。を。並。し。有。馬。左。衛。門。依。

こゝに奇蹟共庫頭忠高。おれんまて。お田右衛門佐
忠之。指にれむ。ひぐれんもの。かくの。と。あり。
あ。野。田。別。ハ。し。ら。り。ふ。ら。さ。ん。あり。され。が。陳。わ。れ
あ。さ。あ。の。後。陳。の。山。ま。よ。ひ。う。あ。り。鴻
津。人。数。八。肥。後。勢。れ。陳。屋。の。う。の。建。造。嶺。の。り。き。つ。れ
こ。ま。て。是。を。り。と。ひ。く。ま。り。さ。る。河。内。代。任
是。の。伝。綱。と。う。あ。何。れ。と。上。使。れ。ん。の。ま。立。花。松
く。あ。陳。れ。と。さ。う。は。高。山。の。ま。よ。の。く
ぐ。ん。と。ぞ。振。ら。ま。さ。ら。さ。う。と。せ。て。河。内。人
数。八。十。二。万。五。千。に。終。り。と。ぞ。ま。さ。い。る。か。く。て
在。陳。れ。諸。將。何。れ。と。河。内。代。の。指。導。を。ま。ら。る。ら。に
依。る。と。ぞ。み。け。陳。の。り。と。さ。ん。と。所。の。お。れ。將。衆

高下

一時島へよりのへ令觸とて

馬がけつらぬわらんより竹をたて

よれとて身つきし山を檣みとて

ふまてつらぬとてあくるべし

しうとうとつらんとて長崎より

うまの藤といふをあらんだ人

せがまんといふとていぬ物とて

海軍諸將何事とて御月代り

のまよりした。二重三重よ

まてはつらぬとてさくらう

つらぬ後へよりのく歎け

もの。五十年は蓄積といふ

大てのしとてさくらう

はつらぬ城の中へ一校

うは物ありありとて

とてとていぬ池より

とては執理の柄をた

火夫れ用かやとていぬ

ひらつらぬ蓄積あり

ひらつらぬ蓄積あり

ひらつらぬ蓄積あり

古老の武士のみとて



高下

十一

三 二月廿一日吉刊り舟橋夜討り事

かくて城中はうらうら今まで八鎮ある諸大名のうりす
くあゝもせわれはあまやせめん今やのりんとまわし
めとせがれたてゝよまを共一さそへは志気のりつ
して糧盡の政ふあひぬと城中はるるのりつ
よゝ心もはれぬさるかくて先陣あるあゝよま
陽を移ぬ月を半とささぬあゝとささぬよま
時貞徳中持に民首と近付は城のてゝ
くはくゝとささぬあゝとささぬあゝとささぬ
懐のふにふとちりしてせむべさ議色をとめ共
報はあゝとささぬと見へさるかくはあゝとささぬ
大軍

高下

十三

あまたたしてらんざんをよみかたをうけとせその
かとお景よらんしてあて織中よりとらん人をお
とせつがごとくもよあきき幕兵もみあわしてさ
むあつらひに受け死成ハ同去うりして前後も
とていあふしとらんまうとらんわらんはおあてはとせ
の軍兵のこもとけし福一海軍もあふらん
あつらひとけあつらんよとていもわくとも
んーねらふお返教せんやうとらんあつらひが
れま志もよは幕一隊被りてらんと海
ゆいーとつととあつらひとわつらひの幕解れ
旅糧任前うもいそら大石大天天ていとも
ふ織中へうりらんまハ日本國がゆとりとも
をさしてさしてあつらんともとていも幕もあふ
あつらひをれが列座の者ども是とせとていも
由敷てとていもあつらんともとていも
ものいあつらひお景もあつらひとていも二
千人とていもよとけ千人とせ戸塚忠三郎布津
村代右衛門女主人よとていも悪田義前よとて
よとていもあつらひ又あつらひもあつらひ
よとていも寺次あつらひとていも又千人とていも
三年千々輪五つた儀の女主人よとていも
つとていもあつらひあつらひとていもあつらひ
三年五百よとていもあつらひあつらひとていも
あつらひとていもあつらひあつらひとていもあつらひ

公忠三傳。代有萬千百人と引率一衣よら門と押
 寄らら。そ夜忠之持に仕奉る者あま田監物大將
 あり。毎夜物見の用心は悪れ者よ十よ人
 邊よわととぬとへ一が伴の悪れ物見
 ども。夜計れりやうとと若米あう行を把裏れ教子
 人堅固は居らら一士卒ともお海いひととと
 びとととんと仕ありと。監物いひとと押開めひ
 づられそあへハ客ありとと。決れ人救とめと中
 へとととせ。若利ら丹の座門ととと。行を把裏へ
 してとととと。ち勢の共けん刀きよとととと。持
 へととと。おひひととと。健民るせの千よととと
 同よととと。寄ととと。竹を把ととと。ひととと
 ひととと。打破り。かあととと。ととと。ととと。大將
 分ととと。同よととと。監物うととと。面ととと。決あらとと
 と。二衣よととと。ととと。ととと。ととと。ととと
 何よ。若利ら丹れととと。ととと。ととと。借故ととと。田監物
 頭ととと。ととと。ととと。ととと。ととと。ととと。ととと
 子。田田依た集の傍よととと。わい。ととと。ぬれひあ
 めく。は由ととと。ととと。今い。ととと。やありひととと
 猛勢一揆れととと。中。面ととと。振ととと。討死家ととと。思
 定して。ととと。ととと。ととと。ととと。ととと。ととと。ととと
 人。小河健助。菅助。若勝太史。新見ととと。新
 三傳。板山又ととと。ととと。ととと。ととと。ととと。ととと。ととと

おのり侍の五六十。一初は山にほくかきりも
おびえしむらぬもむらうらむらぬもむらうらむら
はしむらぬもむらうらむらぬもむらうらむら
これどの夜にれ吉利と丹百と人討らぬも申
生捕十七人。都合忠之見才三人の身小打らぬ一揆
百二十三人とこそとゆへふふとそと又忠之頼計
死に侍よ。まの田田監物。まの田田依左衛門。お伴
者どもお公新身と島兵清。松山又とまの。的夜に
忠是く八田市正家老 此等と始として。夜とへ侍らも七八人
討死し。又負れ侍八廿五人とゆへる。惣としてそ
夜に前よ。討死又負難兵共よ。又十人といふ
ゆ。とそと又を夜に討らぬ一揆。濁海。寺次。田田よ。又
帳二百五十八部とる。二十人といふ。これより。満
是よ。同ととぬ。用心まき。らぬ。も。申。し。ぬ。
後々一揆に。討死。らぬ。夜。う。ら。ぬ。あ。ら。ぬ。
らぬ。



二月廿七日吉村より丹波路城之事
 并根村涼屋重忠の先登の事

かかかどおのけら流わくをきこもあへ。日敷を
 ひあへるあうこそ一旗よ。ぬーぎに一旗居城
 と。ゆへとつめくゑるよ。獨鴻法徳も勝
 けまに。吉村より丹波路の城と。うらへあきうが
 一旗の居けら。娘のわどハ用心とせきさびい
 へる。常ハ城の中より。ちのちとものおたれと
 と。ばわくハ。獨鴻築山より。れ大石大夫あわ
 こらん。一旗の居けら。ばか丸へハ。徳業れ。發云
 と。そむく見へあり。あうれ。わうらりのてけい
 う。い。海ど。おても。城甲のむく見へ。と。あうる

も勝るかの丸とすり竹を把と付らせせて
うきびーくうせあは賊中れううう
きてはるいぞんを愛よあして只一のりたの
ろんと討願とあり御目代はお丸れ仕事と
のそとされおやあひらんを日廿七日に
此刻はうりはお丸へ仕事と付たりが
一揆打つてあん時の用心あやむらん
者三百のり竹を把裏よかく一あむらん
乃人教は由と見え付。このうふ獨鴻とて
抽てさすのりとはと母へまかりして諸軍
つらうと事一ひあむらん御目代は御
此の常とあむ事御軍法りてはてして時
かふと一海は獨鴻とては丸へ仕事と付
れあとのりはとては丸へ仕事と付
鳴とあむらんかくて獨鴻人教あ丸へ仕
ゆと見え付。持はれ一揆ども教千人
石てのりとうとぞあむらん勝者人教
用意はるやあむは決地とてあは仕事
獨鴻多勢とては丸へ仕事と付
らあむらん。時は獨鴻のり御目代
れお丸を侍つた。毎年十七日
のりあむる御軍法とては丸へ仕
あむる御目代。あむる御目代は仕
はる。二丸へのりあむる

かふと一海は獨鴻とては丸へ仕事と付
れあとのりはとては丸へ仕事と付
鳴とあむらんかくて獨鴻人教あ丸へ仕
ゆと見え付。持はれ一揆ども教千人
石てのりとうとぞあむらん勝者人教
用意はるやあむは決地とてあは仕事
獨鴻多勢とては丸へ仕事と付
らあむらん。時は獨鴻のり御目代
れお丸を侍つた。毎年十七日
のりあむる御軍法とては丸へ仕
あむる御目代。あむる御目代は仕
はる。二丸へのりあむる

数万人を軍兵ども持はば大なる三丸をくつにり
 破り。働さう急討として突くとてわう人衆の事
 おまは頸さうまがてよあぶれまは是れをさあ
 りて二丸をまよまよさうかけてりみよりあてど
 せあふた。溜泊人数も二の丸二丸きどくさうりこ
 是とさくトに打破らんとしてすみきれども。志
 利よ丹敷千人二丸九二乃きどへ打あきてりさう
 子ゆりさうりりて。家とさうて。城とさうれを
 さとさう溜泊大人敷押もせらりとつとも城戸は
 破りまかてくして時とさうりて。細川人数後れ
 まよまと打あかり。働農れ者どもとさうてく
 きり。とて斬つ。初。民屋はあかき火とけ
 火丸とらり。せあくれ。懐中。一。後どもありひ
 と。寡。ぬ。後。孫。より。破。進。に。くれ。が。前。後。れ。寡。ま
 わらんで。さう。せん。の。力。も。ほ。き。さ。さ。う。て。い。だ。う。せん
 ころて。見。へ。さう。ころ。と。か。か。ハ。ド。や。あ。ひ。ひ
 ん。あ。お。ん。本。丸。さ。う。て。あ。げ。ら。み。ま。の。細。川。人。敷。え
 やく。り。な。ま。あ。さ。い。の。あ。へ。せ。あ。う。け。ひ。さ。い。と。さ。う。一。揆。場
 女。討。と。て。即。時。よ。本。丸。へ。衆。入。ら。ん。と。仕。ら。う。け。ま
 ぞ。い。本。丸。れ。が。う。人。ら。う。大。石。大。木。と。あ。げ。う。け。さ
 ち。う。て。り。さ。う。と。さ。ら。ふ。ら。う。け。式。ハ。あ。ま。は。後。れ。火。と
 付。あ。げ。ら。う。く。ゆ。り。長。刀。と。さ。う。り。持。て。本。丸。と
 け。り。勢。と。と。家。と。最。期。と。あ。せ。さ。い。な。れ。バ。細。川
 人。敷。ハ。後。孫。よ。忠。刺。又。い。は。は。れ。軍。奉。行。よ。ハ。馬。場

知のぞくことかのことよじりて。身よれ面と見え
 されば。今ハわうとやありひらん。或ハ火中へ飛入式
 ハ討死はより多。一撥れ大将は郎とハ。細川越中も
 忠利は家人。殊の依在者場とハ。者討より多。心も
 きこえし。その日廿八日此キ此刻を。つりよ。皆こと
 くらむ七びも。不思議あり。事ごのり。され
 ば。東に誠とハ。し。より。筆に誠とび。く
 かりと。や。も。や。も。く。落キも。例る。と。人
 と。ハ。合。と。ころ。と。ふ。ひ。あ。と。原。の。城。敵。味
 方。ハ。骸。骨。山。と。築。ころ。が。ご。せ。く。死。と。る。所。の
 ころ。人。老。若。子。妻。あ。よ。む。も。ご。で。二。万。七。八。千。と。あ。る
 らん。と。い。へ。き。こ。え。く。さ。れ。も。あ。ら。ぬ。か。ら。ぬ。

多れが。と。く。都。合。ハ。初。と。ご。り。多。殺。力。ハ。審。ま。も。と
 死。と。う。海。ん。と。衣。と。重。ト。あ。う。ひ。よ。れ。の。城
 あり。る。れ。バ。二。足。と。殊。心。と。強。く。決。せん。登。と。心
 が。け。り。も。多。く。ち。に。あ。り。こ。と。な。れ。が。お。ほ。く。れ。士。僕。討
 ち。と。ろ。ま。の。細。川。越。中。も。忠。利。の。人。殺。も。ハ。討。死。二
 百。七。十。余。人。も。負。れ。士。卒。子。八。百。廿。六。人。ご。り。志。田
 右。馬。の。依。在。之。れ。家人。討。死。二。百。十。三。人。も。負。子。六
 百。五。十。八。人。同。舎。第。一。田。田。甲。斐。也。家人。討。死。三。十
 二。人。も。負。三。百。五。十。五。人。同。其。舎。第。一。田。市。正。家人
 討。死。十。六。人。も。負。五。十。六。人。彌。勝。信。濃。も。勝。茂。也。討
 死。百。六。十。も。負。六。百。八。十三。人。も。負。五。百。八。十五。人。立。花。飛。弾。也。

政家八十八。討死百九十七人。自負三百七十九人。松倉長門
与猪家八十八。討死七十七人。自負九十七人。小笠原
右近大夫家八十八。討死七十八人。自負二百三十一人。同佐徳
家頼の人八十八。討死十九人。自負此者百四十八人。松
平丹後守家八十八。討死三十一人。自負百七十七人。水野
日向守家八十八。討死百六十八人。自負三百八十二人。
寺沢共庫以忠高家八十八。討死七十八人。自負三
百十八人。自負二百九十九人。家八十八。討死三十九人。自負
之百八十八人。田丸門家八十八。討死百八十八人。自負此者
三十余人。松平信直家八十八。自負頼此人。討
死六人。自負百八十八人。討死合して千三百三十
六人。自負と被士卒。六千九百五十余人。都々討
死。自負此士僕ども。八千八十六人。討死
此。その外軍使士諸軍人討死多し。其の
あるはよおより。いざとて。かう人殺す者ども
かやうに一心不亂に死とて。ありし。其の
かやうそ。意趣ハ。上夜。あも。未代。あも。頼
す。い。あ。い。事。も。あり



五 山田右清の作万死とあて一生を得る事

今亡教万れ責利と丹仕申ふ。山田右清の作と云
 ひ一者。死人の死を脱し一者。趣あつてゐる。
 彼右清の作。覚人の勝。清学。法専す。又因縁
 道濟くぬ者。と風波。かき。果れ。本丸
 此特。ある人の民。首あり。右清の作。心。の。不
 や。か。の。ふ。天下。を。引。う。け。か。く。一。揆。と。殺。す。事。
 恐。天。あ。ん。ぞ。あ。り。ん。や。と。深。理。と。り。て。偏。し。民。
 殺。へ。患。列。れ。ら。れ。と。保。ら。る。處。陽。中。自。れ。此。し。
 そ。の。あ。せ。て。へ。患。の。方。と。い。毫。と。上。原。は。方。趣。ハ
 山田右清の作。又。後。頃。れ。者。八。百。余。人。の。り。是。等。地。縣

不違れ吉利ら舟あり。かゝるも後堂等との設
場。いふのく。押菴仕るる力あり。檣菴いふは
こゝく。々々民家。深志と名奉者どもあり。か
ゆらへ。城家と名。天。御僧使ひて。時日と遠と。
御書文と拜奉らば。君と名。勢八百人。樂由あり。
城。中。此。流。屋。火。と。う。け。皆。く。所。陳。へ。事。り。以。て。
又。事。無。く。官。席。が。長。陳。へ。る。と。ゆ。き。そ。一。ま。所。陳。へ。る。
其。い。み。て。小。船。よ。り。事。あ。せ。輒。官。席。と。生。捕。て。所。患。第。
九。一。と。必。定。書。し。城。に。最。り。り。私。慮。と。い。く。小。
船。又。く。用。意。仕。り。る。置。ゆ。の。一。事。あ。細。矢。文。は。認。
め。有。馬。丸。右。馬。の。依。れ。持。口。へ。射。ら。り。々。れ。が。事。り。ま。れ。
者。と。も。是。と。う。り。る。を。く。御。目。代。は。披。露。の。と。傳。細。

是と被屋をいふ。時。此。流。將。の。會。食。の。
つ。と。い。ふ。由。ひ。そ。ふ。御。き。こ。り。く。あり。され。れ。も。
は。者。城。中。第。一。は。民。有。と。き。こ。ゆ。る。ふ。疑。心。う。る。
が。一。々。思。ふ。定。て。か。り。人。等。餘。能。の。せ。あり。
定。に。依。く。偽。の。行。あ。る。べ。し。ま。と。う。は。御。許。用。
あ。ら。り。々。の。山。田。點。止。か。く。あり。ひ。重。重。と。ま。ま。か。へ。
深。志。れ。意。趣。と。傳。社。に。半。玉。と。裏。反。傳。南。西。列。
れ。甚。書。と。書。記。し。て。ひ。そ。か。小。又。持。た。り。ゆ。ら。へ。の。
何。り。偽。わ。ら。んと。城。家。に。時。為。と。御。さ。ご。め。り。て。
ひ。そ。う。ふ。の。是。が。も。ふ。ら。り。趣。と。矢。文。の。射。さ。せ。て。の。
これ。の。城。中。の。ま。ご。小。時。に。運。や。は。り。あり。らん。山。田。ハ。
是。と。い。う。と。う。て。折。為。夜。也。の。叙。索。拾。ひ。らん。

高下めつくと書よ々々。時貞大と云ふにあらう。い
 てくわさる。一向に吉利と丹をありひく。六の
 へへ。そと知くさうき。きらのむまたりとよ。あ
 りあんやとゆや。天帝は冥助あり。い
 とてやぐて右邊の佐め。あそり。かまうう。ま
 一 漢書とく。をを満めあわく。殺害
 山田ハハ。い。同へ。子細を。まび。をい。あ。助
 けや。大江に諸は龍よ。び。せと入して。あを
 と。ぬ。さ。て。伊。丹。城。中。は。れ。民。首。と。ら。う。村。は。矢
 文の躰道百民家。あり。夜討。れ。は。候。あり。持。口
 と。後。り。あ。て。ハ。中。々。大。事。あ。る。べ。一。ゆ。ぎ。ん。あ
 く。強。固。と。べ。一。や。て。は。鬼。極。本。あ。ん。ら。ん。奉
 行。と。指。副。て。三。百。余。人。ひ。ま。あ。く。城。中。と。の。し
 り。と。持。口。心。煉。れ。あ。ま。う。小。用。心。と。や。ぞ。ま。こ
 へ。た。か。わ。つ。ま。一。あ。よ。城。中。も。や。永。保。よ。報。次
 と。落。人。あ。ま。あ。ふ。たり。御。目。代。の。落。人。乃。中
 ぬ。こ。さ。一。此。者。を。る。あ。一。城。中。は。事。ご。御。守
 あり。と。ろ。小。治。い。び。よ。あ。よ。づ。候。ま。この。の。の。に。吐。合
 と。と。ろ。や。城。中。は。旬。の。あ。ぬ。ん。報。薪。盡。て。御。前。と
 ぬ。ゆ。と。云。さ。と。又。山。田。右。邊。の。御。と。云。一。者。あり。や
 や。御。守。の。り。た。れ。が。さん。の。の。進。ち。本。丸。持。口。れ。
 一。ら。あ。ん。の。肉。と。人。殺。八。百。人。は。大。將。侍。者。
 あ。く。い。づ。是。ハ。事。一。自。心。勢。り。れ。由。あ。う。り。れ。く。山
 田。一。門。と。ぐ。々。南。時。は。殺。害。と。う。き。右。邊。の。佐

とて謀むべきの由り定むらざる。時貞同へまこと
細らとて^{てがせり}。銀銀ゆき。大ねれ筆會と兼以と
甲と。上使とのく^ま。受^ま。届^ま。とて^ま。この事^ま。八^ま
突味方忠列の者あり。ふ。あ。れ。助。命。を
かう^ま。母。く。あ。が。く。れ。ご。も。さ。て。れ。お。打。返。
後ひ。ふ。山田ヶ運やけようらん。日教やぐる。く
不思議の^ま。廣^ま。遠^ま。と。あ。一。二。月。廿。八。日。に。全。捕。の
一。揆。れ。中。ま。ま。く。ら。り。て。ご。び。く。せ。あ。ぐ。く。ら。い。れ
く。く。御。目。代。御。佛。ん。ご。て。右。清。作。に。奉。れ。や。う。を
御。る。あり。ま。ふ。ふ。さ。記。の。善。人。の。一。に。ま。ご。も。
ま。ご。の。と。山田ヶ一。よう。條。一。ま。を。知。き。ま。ん。ま。れ。バ
右。清。作。一。人。と。バ。天。下。の。思。あ。り。ま。れ。バ。助。命。れ
言。上。の。い。ま。ん。や。て。助。て。江戸へ。供。せ。ま。さ。ま。い。く
害。と。ぞ。れ。か。事。も。ふ。さ。れ。バ。お。海。く。の。一。揆。死。運
れ。中。に。天。命。乃。惠。あ。や。山田一人。虎。口。よ。害。ま。の
う。ま。い。ふ。人。身。れ。ご。く。そ。あ。思。儀。る。事。

大 清 作

て是之豊れ小倉よ著強ふ。あつてはるの別
れ諸將と。又豊別小倉よの案せせて上意
をこしそハ作しこころ。そ意趣ハ。今交鴻
原わま若のあれ一捺ハ。都て所守れ改法
輕弱もら四へるきは。何れも死刑ハ行す
んは。是とも憐宥と加へら。是帛松倉長門
とハ。義作れ必へ流罪せし。後森因記へを預ら
ゆ。そ倉弟松倉右近とハ。後波曲へるがされ
生駒壹波もへて預らら。次ハ寺次兵庫とも
罪科ら後さふあつ。種とも。流罪と免許の
アして。わま若の万石とたつて。ゆ。そを解系飛
彈る父子。濁流信濃もあ。今河軍法ととし

子魁一きる科小依る。河を若んと考りし。か
らも。かどあ。河赦免とどきこら。これハ表の
河いさ。こかりあ。河慈の難ひろきと。次
かりハ。是や史記の詞よ。とら。あ。と録せさうゆ
則。あ。ともおそれし。やハ。あ。とも。罪れら。こ。あ。ひ
と。これら。らん。せ。今。れ。松倉寺次ハ。死罪
を。あ。め。れ。そ。輕重。小。流。て。亦。ハ。流。刑。式。也。
案。堵。乃。あ。ひ。ひ。と。あ。ゆ。わ。り。ご。こ。か。る。り。一。事。え
あり。か。ゆ。河。成。敗。乃。よ。ら。ら。あ。つ。河。同。ら。ゆ。い。ふ
して。土。農。工。高。は。い。ら。ま。あ。て。あ。い。の。う。に。後。せ。
る。は。い。ら。ま。い。喜。天。曆。の。聖。代。也。これ。の。い。と。い。ふ
し。と。い。て。見。え。へ。し。



詩買

三十一

心

